

## 「フクシマ」という表記について

福島原発事故や福島復興に関する筆者らの研究において、福島原子力災害の教訓を明確にし、福島原発事故を人類史上に位置付けたいと考えるとき、福島を「フクシマ」と表記することがあります。

フクシマという表記に関し、様々な意見があることは承知していますが、それでも筆者は今後も福島とフクシマを使い分けていきたいと考えています。

この件に関して、東京大学大学院工学系研究科の森口祐一教授と筆者との間で、2015年2月に以下のようなメール交換があり、筆者らの考え方を広く理解いただく良い機会であると思い、森口教授の了解のもとに、一部修正加筆のうえ、記録として公開します。

2015/2/12, 7:13, 森口先生より松岡へのメール

松岡先生

来週お目にかかった際にも少し意見交換させていただければと思うのですが、「フクシマ」とカタカナ表記することへの批判があります。

(例)

<http://dot.asahi.com/wa/2014112600078.html>

<http://www.taharasoichiro.com/cms/?p=789>

松岡先生は著書でもカタカナ表記を使っておられますが、そうした批判を直接受けられたことはありますでしょうか。

いろんな方がいろんな思いを持ってこの表現を使っておられる（あるいは避けておられる）と思いますので、強ちそれがいけないとは思わないのですが、そうした言説もあるために、カタカナ表記を使っているだけで、現地への理解が足りないかのような見られ方をする状況も散見されます。

今回の行事についても、公表され次第、ネット（Twitter）で流そうと考えていますが、フクシマ表記についてリアクションがありうるので、先生のお考えをあらかじめ確認したく、このようなメールを差し上げました。

2/26には初参加のある学会の企画セッションで座長を務めるのですが、こちらはフクシマ表記だったものを、上記のような情報があることを伝えたところ、最終版では福島と修正されました。（追記：2/26の学会では、フクシマ表記を福島表記に改めた経緯について、座長から簡単に紹介しました。）

むろん、今回の行事について修正いただきたいという意図ではなく、カタカナ表記することの意味を共有しておきたい、と考えました。

森口

森口先生

ありがとうございます。さすが森口先生ですね。いつかこうした疑問や意見が東京でも出てくればいいなど、ずっと思っていました。しかし、現実の東京では、ものごとの風化や忘却のスピードのほうがはるかに早いようで、今まで東京でこうした議論はしてきませんでした。

実は、私自身の最初の東日本大震災・福島原発事故ものとして出版した本の書名は、『フクシマ原発の失敗』（早稲田出版、2012年7月）でした。その時の経緯は、最初の書名案では『福島原発の失敗』でしたが、出版部の伊東編集長（元有斐閣編集長）が、他の福島事故関連書籍との差別化をはかりましょうということで、「フクシマ」を使用することを提案されたものでした。この提案に対して、私の前任校は広島大学で、20年近く広島に住んで、私自身、以下の自分自身の広島経験から、「広島」と「ヒロシマ」に特別な思いがあり、福島を「フクシマ」と表記することに積極的な価値を感じ、伊東編集長の提案を受け入れたという経緯があります。

広島のおよそ者（私自身はコウノトリや城崎温泉や植村直己で有名な兵庫県豊岡市の生まれ育ちです）であっても、広島に長く住むと、様々な形で被爆者や原水爆禁止運動組織や広島市・広島県といった行政（まちづくりや環境問題）とも付き合いができました。広島に長くいると、好き嫌いとは関係なく、気づくと一緒に仕事をしたり、話をしたりしている人が被爆者（2世含め）であったり、原水爆関係者であることが多くあります。そして、ある程度親しくなると、自然と被爆者としての思いなどの話もします。広島では、普段の広島、戦前の「軍都としての広島」、「人類最初の被爆地としてのヒロシマ」、「国際平和都市としての HIROSHIMA」など、文字通り様々な「ひろしま」があり、広島の人々は、様々な「ひろしま」を自分のものとし、使い分けています。特に広島を人類史上に位置付けたいとの思いが強い時は、意識的に「ヒロシマ」を使い、被爆者の願いを普遍化する努力を続けてきたように思います。もちろん、広島でも様々な意見がありますので、以上の整理はあくまでも私自身の理解です。

その後、2013年12月に福島の人たちと『フクシマから日本の未来を創る』（早稲田出版）を編集・出版するとき、書名をどうするのかで、何度か福島で、いわきおてんと SUN 企業組合の吉田さん、島村さん、里見さんや彼らと一緒にやっている若手・中堅の方々や双葉郡の避難者の方々ともお話しし、その中で「フクシマという表記には違和感を感じる」、「自分たちの住む福島ではないように感じる」、「冷たい感じがして嫌だ」といった意見がありました。もちろん、「フクシマ」で良いという意見もあったのですが、地元の人に「嫌だ」と感じる人がいる以上、どうしようかなと思いました。その中で、私自身の広島での経験や広島の思いなどをお話しし、福島を人類史上に「フクシマ」として位置付ける意義なども丁寧に説明し、議論を積み重ね、関係の皆さんに「フクシマ」と表記することの価値も理解していただき、最終的に『フクシマから日本の未来を創る』という書名にしました。

一部の福島の方がたには、フクシマはヒロシマを連想させ（まさにそうなのですが）、被爆者というイメージを強調することになり、自分たちは被爆者だと言われているようで嫌だとの意識があることも事実です。また、今のところ、多くの福島の方は、フクシマという表記を積極的に使っていません。

そうした上で、これからも、私自身は、自らへの問題提起も含め、福島とフクシマを使い分けていこうと考えています。言葉にこだわりすぎたり、言葉狩り的なことは避けるべきですが、同時に、言霊（ことだま）ですので、言葉は大切にすべきものです。ただし、日本語、特に万葉言葉は読み言葉の音（発音）が大事で、表記文字は二次的で、後付けであるとも言われています。その意味では、「ふくしま」があり、その上で「福島」や「フクシマ」があるのかもしれない

ません。

私自身は『フクシマ原発の失敗』の最初の方に書きましたが、自分の学者人生の中で福島原発事故には特別な思いがあります。福島を、福島としてだけでなく、「フクシマ」として人類史上に位置付けることが必要であり、福島の教訓を明らかにし、それを今後の人類社会に活かすことが重要であり、そうしたことが出来れば、「フクシマ」という表記をあえて使う必要もなくなるだろうと考えています。

長文になり、誠に失礼しましたが、私がなぜ、時として、「フクシマ」を使用するのかをご理解いただけましたら幸いです。

引き続き、よろしくお願いいたします。

松岡

#### 2015/2/12, 13:10, 森口先生より松岡への返信メール

松岡先生

長文にわたるご説明、有難うございます。お尋ねしてみてよかったです。

『フクシマから日本の未来を創る』については、当然関係者と協議されたうえであろうとは考えていたのですが、その際、積極的に支持があったのか、否定的な雰囲気だったのかが気になっていました。

2/26の学会行事を企画された方は、長崎に在住されたことのある方でしたので、符合するものがあります。

『福島を、福島としてだけでなく、「フクシマ」として人類史上に位置付けることが必要であり、福島の教訓を明らかにし、それを今後の人類社会に活かすことが重要であり』については同感なのですが、それは学者側の都合であり、当事者側はそっとしておいてほしい、という想いがあるかもしれません。甲状腺などの健康影響の調査（ちょうど今日も検討会があります）も同様です。

私の懸念は、もう少し捩れたところにあり、「フクシマという表記はけしからん」と批判することによって、結果的に上記『』内を弱める力が働きうること、それが「ものごとの風化や忘却のスピード」とあいまって、今回の事故を免責する方向に働いてしまいかねないことでした。

そこをわかっている方は、松岡先生が「フクシマ」表記を、腹を据えて使っていられることを応援しておられるのではないかと思います。

森口